児童家庭支援センター つつじ

今年四月、諏訪地域初となる「児童家庭支援センター つつじ」が開所しました。地域の児童福祉に関する課題に専門的かつ総合的に対応していく「つつじ」。家庭的な安らげる空間で、信頼できるスタッフが「子育て」に関するあらゆる相談に応じます。「迷ったら、ここに来て欲しい。暗闇に灯るオレンジ色のランプ…灯火でありたい」と語る、センター長の川瀬勝敏さんに、児童支援への真摯な想いをお聞きしました。

「灯火でありたい」利用者に近づいた支援を

茅野駅前ビル「ベルビア」。3階でエレベーターを降り、ほのかに漏れる光を頼りに廊下を進んでいくと、児童家庭支援センター「つつじ」はあります。大きなガラスのドアを開けると、室内は外光が降り注ぐゆったりとした空間で、スタッフが明るい笑顔で、相談者を温かく迎えてくれます。

「つつじ」のスタッフは、センター長をはじめ、児童福祉の知識を持ち地域の市町村や保育園、学校と連携する「相談員」3名、子どもや家族、支援者の心に寄り添う「心理士」1名、里親に関する相談・研修を行う「里親支援専門相談員」1名の全6名。県の委託を受けた岡谷市の「児童養護施設つつじが丘学園」を運営している、「社会福祉法人つるみね福祉会」が運営しています。

「つつじ」では、子育てに関して、直接相談に訪れた人や、市町村の子ども課などからのあらゆる相談に応じ、子どもや家族の心のケアを行います。〝地域の子育て相談のスペシャリスト〟として、児童相談所などの地域の専門機関とも協力し、子どもたちを取り巻く様々な課題を利用者と一緒に考えていきます。また、「つつじ」では行政などと違い、特定のスタッフが相談に応じるため、ずっと同じスタッフが親と子の成長を見守る永続的支援が行え、より利用者に近づいた支援をしていくことができます。

駅ビル内で、茅野市の子育て支援施設「こども館0123広場」の隣という利便性の良い場所に開所したのは、悩みを持った人に、相談に来てもらいやすくするため。「ゆったりした気持ちで相談に来て欲しい」とセンター長の川瀬さんは語ります。何か起こる前に相談することで、防げることがたくさんあるといいます。

なかなか相談できずにいる人を救いたい、というのも「つつじ」の願いのひとつなのです。

「子どもの願い」を支える新しい「里親制度」へ

「つつじ」には諏訪地域では初めて「里親支援専門相談員」が配置されました。

里親とは、様々な理由で、産んでくれた親と一緒に暮らせない子どもを家族の一員として迎え入れ、温かい愛情と正しい理解で、その成長をサポートする存在のことで、養育里親、専門里親、養子縁組里親、親族里親などの種類があります。

「つつじ」では、「里親制度」は「子どもの願い」に対して、それを支えるための制度だと考えています。「一人の人生を一緒に支えたい」という想いで、これからの支援のあり方、里親制度の新たな考え方を模索しながら、里親になるための研修、登録、養育支援に力を注いでいきます。

※SDGs〈エスディージーズ〉：2015年に国連で採択された、17のグローバル目標と169の達成基準からなる持続可能な開発目標
持続可能な開発とは「将来の世代の欲求を満たしつつ現在の世代の欲求も満足させるような開発」のこと。

人は人の中でしか人として育つことはできない。

●このセンターを設立されるにあたり、県や諏訪6市町村への働きかけなど、川瀬さんが中心となってやられたとお聞きしました。つつじが丘学園の園長もされながら、この大変な仕事をやろうと思われたきっかけ、いきさつを教えてください。

川瀬ー児童養護施設で、家族と離れて暮らさなければならない子どもや家族を長年見てきた中で、施設に来る前に支援ができたり、早い段階で予防的に関わることで「子どもが家族や地域から離れて生活しなくてもよかったのではないか」ということを感じるようになりました。それで、施設に来る前に、こちらから利用者に近づいていける「相談」というかたちで子どもたちを支援する方法がないかと考えていたところ、平成9年に児童家庭支援センターが法律で認可されたことを受け、児童養護施設の中のひとつの業務としてではなく、誰でも自由に相談に来ることができる独立した施設としてのセンターの設立を目指して、一昨年から動き始めました。

●実際にスタートして、どのような相談が多くありましたか。

川瀬ー子育て中のお母さんの育児の悩みや不安などでしょうか。子どもの育てにくさや、自分の想いが子どもに伝わっているのかが分からないことに対する相談、落ち着きのない子どもへの関わり方などもありました。また、高校を卒業する、自立手前の子どもからの就職、進路の相談もあります。

●どのような場合に相談に来てよいのでしょうか。

川瀬ー周りと比較するのではなく、自分の中で「あれ？」と思うことがあったら相談に来て下さい。とかく、今の時代はインターネットで調べてマルやバツをつけて判断をしてしまいがちですが「人は人の中でしか人として育つことはできない」と思っているので、人と関わることによって、悩みから人生が豊かになっていくという「つなぎ」を「相談」というかたちでつくっていくことがとても大切だと思っています。子育ては大変ですよね。大変だからこそ支え合っていくこと、社会を含めてみんなで支えているんだよ、ということを、ここで確認したり再認識したりして、自分の地域、コミュニティに戻った時に、今度はその考え方をなんらかの活動に生かしてもらえると、地域福祉も向上していくのではないかと思います。

地域の中で、子どもが一人も取り残されないように。

●地域での子育てを含めて、これからの児童支援のあり方についてお聞かせください。

川瀬ー世界で今、SDGs※が掲げられています。「地域の中で、子どもが一人も取り残されないように。家族が一つでも取り残されないように」しなければならないということを目標に世界中が生きて行くという目標を持った中で、一人一人が考え方を見つめ直して新しい連携を考えていくということが求められていると思います。今回のコロナでの状況を見ていても特にそう思います。地域の中で一人の子どもや家族の悩みに対して、地域のみんなが関わるということをやっていかなければならない。その後押しやサポートをやっていきたいと思っています。地域のネットワークで家族を「見守ったり、知る」という日常を持ちながら、学校、行政、医療、福祉が結びついて、具体的かつ重層的に支援の方法を考えながらサポートしていく。主役はあくまでも「子どもと親」であって、それを鳥の巣のようにみんなで支えていく。巣がしっかりしていれば必ず自立し、飛び立ちます。「人とのつながり」が、より人生を豊かにするということを提案していきたい。その一つが「里親制度」であったり「他者との連携した子育て」です。そうしたことが「持続可能な開発目標」を叶える社会につながっていくのではないかと思います。

安心して、スムーズに社会が変わっていかれるように、これからも専門的見地で、みなさんに分かりやすくお伝えしていきたいと思っています。

インタビュー Katsutoshi Kawase

川瀬勝敏さん

児童家庭支援センター つつじ・センター長
児童養護施設 つつじが丘学園・園長
一般財団法人長野県児童福祉施設連盟・会長
信州豊南短期大学幼児教育学科非常勤講師

アメリカ・ボストンにて自閉症児の生活支援に携わる。
指導員として25年間つつじが丘学園にて児童支援に携わり
現在、つつじが丘学園園長を兼任。

家族っていいけど
大変なこともいっぱい
わからなくなってしまったら

相談時間（相談無料）

月～土 / 10:00～17:00
休日 / 木・日・祝

TEL・メールでご予約ください
必要に応じて時間外も対応いたします

TEL：0266-75-1108
FAX：0266-75-1153
Mail：chino_jikasen@tsutsuji.or.jp